

デンチャーエイドLCの臨床応用



千葉県市川市開業
村岡秀明

エンドにペリオに咬合に、どんなに注意を払っていても、残存歯の抜歯に至ることがある。また、完璧だと言われるような義歯を作っても、年齢とともに顎堤が吸収することがある。日常臨床の中で多く見られるこれらの事態に、適切に対処できることが、患者さんとの信頼関係につながっていく。すなわち、臨床家にとって、増

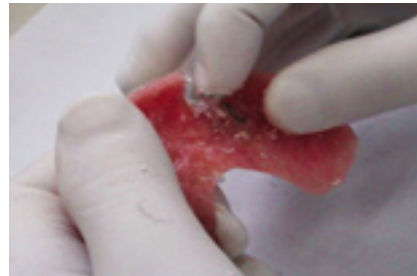
歯、裏装、辺縁形態の修正というようなテクニックを身に付けておくことは、これからの時代を生き残るためには、必須なことなのである。そのような中、この度、ジーシー社より、義歯床延長・補修用レジン「デンチャーエイドLC」が発売された。2つのペーストを練和するだけで得られるパテ状のレジンは、操作も簡単で、ちょうど

良い硬さで、辺縁を思い通りの形にすることができる。またデュアルキュアタイプであるから、化学重合により、口腔内である程度の硬さにすることができるので、1次硬化後に口腔内から取り出すときに、変形させることがないのも魅力である。早速、臨床に応用してみたので、その中から2症例をご紹介します。

パーシャルからフルデンチャーへの改造 (1)



1
1
最後の残存歯を抜歯。このままでは義歯が脱落してしまうので、床縁を改造して、総義歯にする。



1
2
クラスプを撤去して、人工歯をつける。



1
3
辺縁を延長する前に人工歯をユニファストIIで固定する。



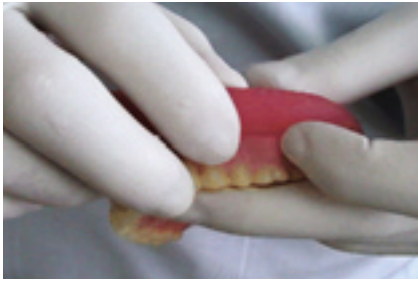
1
4
新鮮面を露出させる。



1
5
デンチャープライマーを塗布。



1
6
デンチャーエイドLCベース(ピンク)とキャタリスト(半透明)を練和する。



1
7
練和したペーストを辺縁部に圧接していく。



1
8
旧義歯改造の要点は、適切な辺縁形態を作るための適切なレジンを使い方である。



1
9
柔らかすぎると形ができず、硬すぎると辺縁が分厚くなりすぎてしまう。練和時には腰のある、ほど良い硬さを持っており、口腔外で予め辺縁形態を付与できる。



1
10
義歯への圧接・付形終了。



1
11
口腔内へ挿入し、咬合状態の確認と辺縁形態の付与を行う。デュアルキュアタイプのため、口腔内で、ある程度の硬さになる。最終硬化しているわけではない。



1
12
仮硬化が終了し、機能運動後に変形させることなく取り出した義歯。この後、エアバリアー材を塗布し、光重合器で最終硬化させる。



1
13
エアバリアー材の水洗後、適合調整を行う。



1
14
口腔内での適合調整。



1
15
パラフィンワックスを使用して口蓋部を延長する。



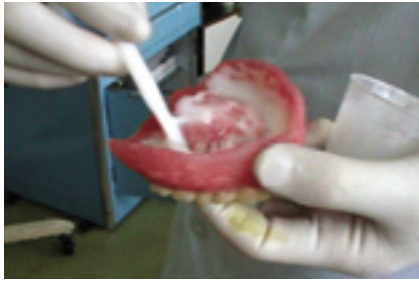
1
16
口蓋部にリベース材を塗布する。この時、内面に入れたリベース材により、咬合を狂わせやすいので、充分に注意する。



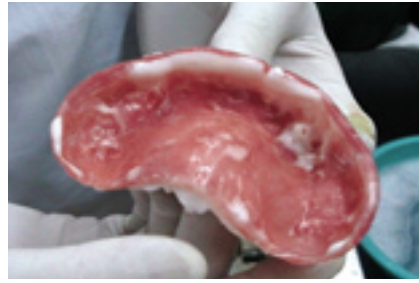
1
17
口腔内で、リベース材が硬化後、後縁部延長に使ったパラフィンワックスを流蠟する。



1
18
口蓋面はカーバイドバーなどでおおまかに仕上げた後、舌感が良いように耐水ペーパーで仕上げる。



1
19 義歯内面に粘膜調整材を塗布する。



1
20 口腔内から取り出した義歯。当日の作業はここまで。抜歯窩の治癒を待って、改造された義歯をトレーとして、最終印象を採得する。

パーシャルからフルデンチャーへの改造(2)



2
1 抜歯にともない、上顎全部床義歯に改造。



2
2 クラスプの撤去を行う。



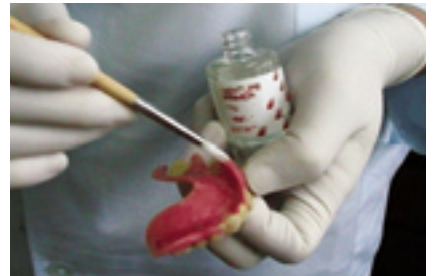
2
3 増歯の位置決め。



2
4 増歯の仮固定はユニファストIIで行う。



2
5 床線を作る前に、人工歯の位置を決める。



2
6 新鮮面の露出後、デンチャープライマーを塗布。



2
7 練和したデンチャーエイドLCを義歯に圧接する。



2
8 デンチャーエイドLCを付形し、口腔内へ挿入する。

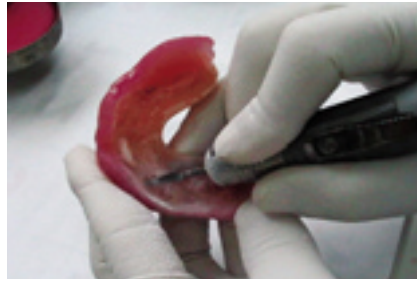


2
9 咬合状態の確認。



2
・
10

仮硬化が終了し、機能運動後に変形させることなく取り出した義歯。この後、エアバリアー材を塗布し、光重合器で最終硬化させる。



2
・
11

エアバリアー材を水洗後、適合調整を行う。



2
・
12

パラフィンワックスを使用して口蓋部を作製する。



2
・
13

口蓋部にリベース材を塗布する。



2
・
14

内面にリベース材を入れることにより、咬合を狂わせやすいので十分に注意する。



2
・
15

口腔内から取り出した義歯。



2
・
16

流蠟後、舌感が良いように、口蓋面は耐水ペーパーで仕上げる。



2
・
17

上顎全部床への改造が終了。

まとめ

日常臨床で遭遇する残存歯が抜歯に至り、旧義歯を改造して増歯や裏装、辺縁形態の修正などを行い全部床義歯への改造術式を紹介した。適度な粘性のあるパテ状のデュアルキュア型義歯床延長・補

修用レジンの登場によって、いとも簡単に旧義歯をそのまま全部床義歯として機能を果たすことができるようになった。本レジン特性を理解することにより様々な症例に応用できることが期待できる。